

確かな学力を育むための「わかる授業の創造」

ー メディア活用の目的を明確にした授業づくり ー

メディア教育研究部会

1 研究主題について

現代は新しい知識・情報・技術が社会あらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す「知識基盤社会」と言われている。このような時代を担う子どもたちに必要な能力こそが「生きる力」であり、その育成が新学習指導要領でも基本理念として継続されている。「生きる力」とは、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視したものであり、中でも確かな学力を育むことに焦点をあて、その課題解決に向けて、メディア機器を有効に活用できないかと考え、本主題を設定した。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 第29回NHK杯全国中学校放送コンテスト
ト香川県予選

- ・日時 7月28日(土)
- ・場所 NHK高松放送局
- ・内容 テープ審査

(2) 夏季研修会

- ・日時 8月21日(火) 9:00~12:30
- ・場所 eーとびあ・かがわ
- ・内容

- ① メディア教育研究大会の事前発表
- ② フューチャースクール事業について
- ③ ICT活用実践講習

(3) 香中研メディア教育部会研究大会

- ・日時 11月9日(金) 13:50~16:30
- ・場所 三豊市立三野津中学校
- ・内容

ア 公開授業

学年	教科	題材名	授業者
1	理科	物質の姿と状態変化	高木恵三
2	学活	食育(スペシャル朝ごはんを考えよう)	溝川友紘 高橋美佳

イ 研究提案発表

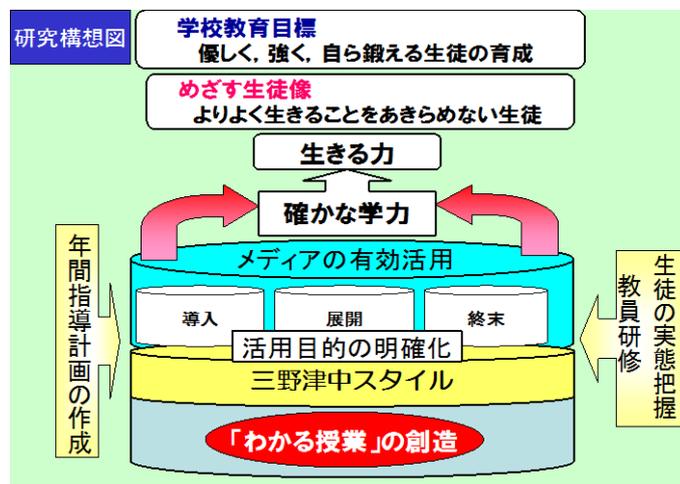
三豊市立三野津中学校 大石 清治
清水 美樹

ウ 指導講話 香川県教育委員会指導主事
武藤 成継氏

【研究大会の概要】

本校は平成23年度から24年度にかけてメディア教育の研究指定を受け、教員の授業力向上をめざし、全教科でさまざまなメディアを積極的に活用し、生徒の知的好奇心を高め、主体的な学習活動を展開し、より大きな学習成果(「確かな学力」)をあげること目標とした。

そのためには、今ある機器(大型TV・電子黒板等)を有効に使ったり、デジタル教科書を授業に導入したりするなど、どの学校でも実現できる「メディア活用の目的を明確にしたわかる授業づくり」をテーマに研究を進めた。



具体的な研究内容は以下の4つである。

- ① メディア活用年間指導計画の作成
- ② メディア活用の目的を明確にした授業実践
- ③ 教職員のメディア活用技術の実態把握
- ④ メディア教育の視点からの生徒の実態把握

上記の②の目標分析を次のように行った。

メディア活用の目的（12種類）

導入

展開

終末

・ 体験の想起
・ 動機付け
・ 課題の提示

・ モデルの提示
・ 失敗例の提示
・ 比較
・ シミュレーション
・ 説明の補助
・ 調べ学習

・ 表現活動
・ 繰り返しによる定着
・ 振り返り

これらをふまえ、各教科のメディア活用場面を洗い出し、年間指導計画を全教科で作成した。

メディア活用授業計画

各教科 メディア活用場面の洗い出し 理科

学年	単元	使用機器 使用ソフト	使用目的	使用方法
1	植物の世界	PC、大型テレビ デジタル教科書 インターネット	動機付け 課題の提示 説明の補助	・さまざまな生物や特徴を映像や写真で確認する。 ・教科書の説明の補助として利用する。 ・話し合いの場面で電子黒板として利用する。 ・顕微鏡などの機器の使い方や実験方法の説明の補助とする。
	身のまわりの物質	PC、大型テレビ デジタル教科書 インターネット	動機付け 課題の提示 説明の補助	・実験器具の使い方や実験方法の説明の補助とする。 ・教科書の説明の補助として利用する。 ・話し合いの場面で電子黒板として利用する。

使用目的を明確に

より効果的な場面で

メディアの目的を明確にした学習指導案の作成も考慮し、校内研修で共通理解を図った。従来の学習指導案の学習指導計画の次に「メディア活用の目的と深めたい観点」という項目を付け加えた。そのことで、「どんな場面で」「何を」「どのように使って」「生徒にどんな力を身につけさせたいか」を明確にし、ただ漫然とメディアを活用するのではなく、教員側が意図をもってメディアを活用することを心がけた。

メディア活用の目的を明確にした学習指導案

メディア活用の目的と深めたい観点

どんな場面で

何を

どのように使って

	活用メディア	活用目的	深めたい観点
導入	① ビデオカメラ、大型テレビ	課題の提示 比較	関心・意欲・態度
	② パソコン(プレゼンテーションソフト)	説明の補助	科学的な思考
終末	③ ビデオカメラ、大型テレビ	説明の補助	技能・表現

生徒にどんな力を身に付けさせたいか

次に、実践の一例を示す。

これは理科（2年生）の授業における展開の場面である。課題の提示とシミュレーションによる説明の補助の目的で、電子情報ボードと班ごとにノートパソコンを使用した例である。ダウンロードした簡易オシロスコープというソフトウェアを使って、見えない音の波形を比較したり記録したりすることができ、生徒自身で規則性に気づくことができた。

【理科】 音の世界（1年生）

トロンボーンやリコーダーの音の波形を見る

シミュレーションによる説明

班ごとにノートパソコン

ソフトウェアの利用
(簡易オシロスコープ)

知的好奇心の高まり

波形を比較したり、停止して記録することができる

【研究大会の成果と課題】

2年間の研究指定を通して、現時点での成果と課題は以下のようなものである。(○成果, ●課題)

- 各教科でメディア教育年間指導計画が作成でき、計画的に進められた。
- メディア活用の目的を理解することで、活用する場面を選択して活用できた。
- 生徒のアンケート結果より、授業に対する興味・関心が高まり、わかる授業に迫ることができた。
- 施設・設備面の整備が不可欠である。
- 教員のスキルにばらつきがある。(継続的な研修の必要性)

3 成果と課題

メディアを取り巻く環境が日々進歩し、学校教育が追いつけていないのが現状である。夏季研修会ではタブレット端末の教育への利用を考え、研究大会ではメディア活用の年間指導計画を作成し全教科で計画的な実践を見ることができた。メディアの新しい技術を教育現場に取り入れ、教育効果の上がる授業を設計し発信していきたい。